

Lead the Digital Transformation →

2017年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2016年8月9日
株式会社 **クレスコ**

❖ 第1四半期の実績

- ・ 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いは、デジタル革命の潮流が後押しする形となり、前年比**増収増益**
- ・ **事業分野別、子会社毎の業績は、まだら模様**の様相

❖ 第1四半期のトピックス

- ・ 「IBM Watson」を使用したマッチングシステムが、サービスイン
- ・ 4月1日付で、「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合し、ERP事業を一本化
- ・ 6月17日付で、執行役員制度を導入し、ガバナンス体制を強化

❖ 今期の通期見通し

- ・ 5月9日に発表した業績予想・配当予想から**変更なし**

[単位：百万円未満切捨]

▶ 経営成績

			前年同期比	
⊕売上高	...	70億14百万円	↑	4億50百万円 106.9%
⊕営業利益	...	4億70百万円	↑	46百万円 111.1%

セグメント別売上高	ソフトウェア開発事業	金融・保険分野	29億26百万円	↑	1億07百万円 103.8%
		公共・サービス分野	14億00百万円	↑	59百万円 104.4%
		流通・その他の分野	13億92百万円	↑	1億06百万円 108.3%
組込み型ソフトウェア開発事業		通信システム分野	1億54百万円	↓	▲ 72百万円 68.0%
		カーエレクトロニクス分野	5億18百万円	↑	64百万円 114.3%
		情報家電等・その他の分野	6億11百万円	↑	2億07百万円 151.3%
	商品・製品販売		11百万円	↓	▲ 21百万円 35.1%

▶ 財政状態

⊕総資産	...	176億41百万円	↓	▲ 15億89百万円 前期末比
⊕自己資本比率	...	68.8%		前期末 63.3%

① 2017年3月期の取組み

たゆまぬ「信頼と成長」のために

大きく！ 繋ぎ！ 超える！

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. ビジネスのスピードアップ
2. コア事業（システム基盤、アプリケーション開発、組込み）を組合わせたビジネスの推進
3. デジタル変革をリードする先端技術の研究、拡大（AI、Robotics、IoT）
4. 品質、生産性の徹底的追求
5. サービスビジネスの推進
6. グループシナジーの強化およびM&A、アライアンスの推進
7. 大規模・複雑化・多様化する課題を解決するスペシャリストの育成
およびスキル強化
8. 開発体制の拡充（ニアショア、オフショア、ビジネスパートナー）
9. 積極的な情報発信（PR、IR）
10. グループガバナンス及びコンプライアンスの強化

「CRESCO Ambition 2020」および対処すべき課題を踏まえて

1 組織関連施策

- 意思決定の加速およびコア事業の相互連動を実現する、大規模な組織再編
- 大規模プロジェクトに対応する、デリバリーセンターの設置
- 未来技術の追求を実現する、AI & ロボティクスセンターの設置
- グループ連携を強化する、グループ事業推進本部の設置

2 技術関連施策

- システムインテグレーション事業のデジタル化
- 知的財産の蓄積、管理および活用の推進
- クラウドビジネス拡大へ向けた事業再編
- 機能安全(高信頼性技術)ビジネスのマーケット拡充
- マーケットイン型ビジネスへの投資

3 その他施策

- 多様なスペシャリストを育成する人事制度、育成制度の改革
- 事業、自社サービスのプロモーション強化、広報/IR活動の充実
- コーポレートガバナンス体制の強化およびコンプライアンスの推進

平成28年1月25日

各 位

会社名 株式会社 クレスコ
代表取締役社長
代表取締役社長 根元 浩幸
(コード番号：4674 東証第一部)
問合せ先 経営企画室長 米崎 道明
(TEL 03-5769-8011)



連結子会社の組織再編と代表者の変更に関するお知らせ

当社は、平成28年1月25日開催の取締役会において、平成28年4月1日付をもって、子会社のクレスコ・イー・ソリューション株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：谷口 義恵）と株式会社エス・アイ・サービス（本社：東京都港区、代表取締役社長：谷口 義恵）を統合するとともに、クレスコ・イー・ソリューション株式会社の代表者を変更することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 統合の理由

クレスコ・イー・ソリューション株式会社は、1998年の設立からSAP社のERPの導入支援および保守運用支援を専業としており、また、株式会社の設立から、SAP社のERPと各種顧客システムとの連携

株式会社エス・アイ・サービスは、クレスコグループの2015年4月、当社が完全子会社化いたしました。お客様基盤を拡大するとともに、抜本的な効率化と事業の更なる向上に資するものと考えております。

クレスコグループは今後も経営資源の「選択と集中」を図り、更なる成長にチャレンジしてまいります。

【目的】

- ERP事業の一元化
- お客様基盤の拡大
- 抜本的な効率化と事業改革のスピード化の実現

平成28年5月9日

各位

会社名 株式会社 クレスコ
代表者名 代表取締役社長 根元 浩幸
(コード番号 4674 東証第1部)
問合せ先 常務取締役 丹羽 蔵王
(TEL. 03-5769-8011)

役員人事と執行役員制度の導入に関するお知らせ

平成28年5月9日開催の当社取締役会において、下記の通り役員人事と執行役員制度の導入を決議しましたのでお知らせ致します。

1. 役員人事

(1) 役付取締役の異動 (平成28年5月9日)

新 役 職 名		
専務取締役	山元 高司	常務取締役

【目的】

- コーポレートガバナンス体制の強化
- 経営の意思決定および監督機能と業務執行機能の分担の明確化
- 現場実務レベルでの意思決定を迅速にし、業務遂行機能の強化
- 幹部社員のモチベーションアップ
- 経営幹部の育成および企業競争力の強化

② 決算ハイライト

■ 日本経済

- 熊本地震やイギリスのEU離脱問題、為替の動向など、国内外からの悪材料が相次ぎ、先行きの不透明感から、企業の投資が慎重姿勢に転じるなど下振れリスクが増加

■ 情報サービス産業

- 第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術）、AI（人工知能）、ロボティクス、IoT、セキュリティ（標的型攻撃の防御やマイナンバー対策）への関心が高まる
- 特に、クラウドとモビリティに関する領域は、パブリッククラウドやモバイル端末（スマートフォンやタブレットPCなど）の普及を背景に、検討する企業が増加





■ クレスコGroup

- 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いが、デジタル革命の潮流を後押し
- 受注量の維持・拡大および市場の変化に対応したサービスの開発、先端技術の取込みに的確かつスピーディに対応すべく、開発体制の強化（人材の確保、育成等）、品質管理、グループ間連携に注力
- 先端技術の研究（特に、AI、ロボティクス、IoT）、新規事業の創出、各種サービス・ソリューションの拡販等に努める

※ 一部を除き、商品名は当社の商標または登録商標です。
 ※「Watson」は、各社の商標または登録商標です。
 ※クレスコは、「watoson」の初期エコパートナーに選定されています。

セグメント	事業		
ソフトウェア 開発	アプリケーション開発 ・ 基盤システム構築	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション開発は、堅調 基盤システムは、クラウド対応が鍵 ・金融関連は、メガバンク、生命保険向けのシステム開発が、牽引 ・旅行関連、サービス関連の開発案件が堅調 	
	オリジナル 製品・サービス		クレアージュ [AWSをベースとしたクラウドソリューション] AWS(パブリッククラウド) の利用増加に伴い、受注増加
			インテリジエントフォルダ [“クラウド上”のオンラインストレージサービス] ストレージサービスに高速クラウド機能を搭載、新規顧客を獲得
			KEYAKI [IoTシステム基盤] IoTデバイスのためのプラットフォーム提供につき、引合い増加
			Watson連携サービス [人工知能(AI)] Watson案件を新規受注
組み込み型 ソフトウェア開発		まるロボ [ロボットプラットフォーム] ビジネスケース策定中	
		<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム関連は、デジタル通信端末の開発規模が減少 ・カーエレクトロニクス関連は、車載系のシステム開発が牽引 ・その他は、デジタル情報家電、医療機器、制御系が好調 	

			セグメント		
			ソフト	組込み	製品
	クレスコ・イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高収益の請負案件を獲得できず。 自社の開発要員の採用計画が不調 ◆ 新規開拓や新分野への取組みを行うも、受注案件の収益性が低く、減益 ◆ 【課題】人材の確保、プロジェクトマネジメントの改善、ソリューション事業の拡充 <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 2016年4月1日付で「エス・アイ・サービス」を統合 【目的】 ERP事業の強化 </div>	●		
	クレスコワイヤレス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 代理店や半導体メーカーとの協業体制を構築するも、案件のボリュームが不足 ◆ 量産案件は、第2四半期以降の受注を視野。 事業の推進体制見直しを検討 ◆ 【課題】ビーコン案件の拡大とブリッジ端末の製品化によるIoT機器ビジネスへの参入 		●	●
	アイオス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高収益の案件が先送り。プロジェクト参入予定の人員が「待機コスト」に ◆ その他、案件の小型化等により、十分なリカバリーができず、減収減益 ◆ 【課題】営業体制の強化、独自ソリューションX-WAYの拡販、関西エリアの事業拡大 	●		
	クレスコ九州	<ul style="list-style-type: none"> ◆ クレスコグループとの連携強化によりニアショア開発案件が堅調に推移、増収増益 ◆ クレスコ以外からの社内持ち帰り案件を新規受注、作業効率を改善、利益率向上 ◆ 【課題】新規顧客の開拓、在京企業からのニアショア案件確保、人材の確保と育成 	●		
	クレスコ北陸	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ソフトウェア開発事業、CAE（構造解析）事業は、トップラインはほぼ確保 ◆ 主要顧客の受注変動は一時的。一部の不採算プロジェクトが利益の引下げ要因に ◆ 【課題】CAE事業のリスク分散、新規顧客開拓、産学官連携ビジネスの実装化 	●		

			セグメント		
			ソフト	組込み	製品
	科礼斯軟件(上海)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 既存顧客（日系メーカー）からの継続受注は期初想定どおり、困難な状況 ◆ 中国国内景気等を背景に、案件そのものが急激に減少 ◆ 【課題】中国ビジネスのクロージング検討、人材シフト 		●	
	シースリー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電力システムの大規模プロジェクトが継続し、業績に寄与 ◆ 発電および鉄道制御システムは、派遣契約から請負契約への一部転換が業績貢献 ◆ 【課題】新規顧客の開拓、低収益プロジェクトからの脱却、新卒を含む人材の獲得 		●	
	クリエイティブジャパン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の日立グループからのネットワーク更新案件の受注が、堅調に推移 ◆ クレスコグループとの協業も堅調に推移、新人の早期有償化も寄与し、2桁成長 ◆ 【課題】一括SI案件の受注拡大、セキュリティ事業の拡大、仮想化技術の向上 	●		
	メディア・マジック	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大型受注案件の立上げ遅延および予定案件の失注等が、業績に大きく影響 ◆ ビッグデータ関連の案件受注（新規顧客）、他社サービスの販売代理店事業開始 ◆ 【課題】営業体制の強化、開発要員の確保、新規ビジネス立ち上げ <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2015年10月1日付で子会社化</p> <p>【主な事業内容】 Web制作を中心としたシステム開発・コンサルティング</p> <p>【目的】 ・クレスコグループの関西拠点 ・Webデザイナー在籍により、Web開発業務でグループ内連携</p> </div>	●		

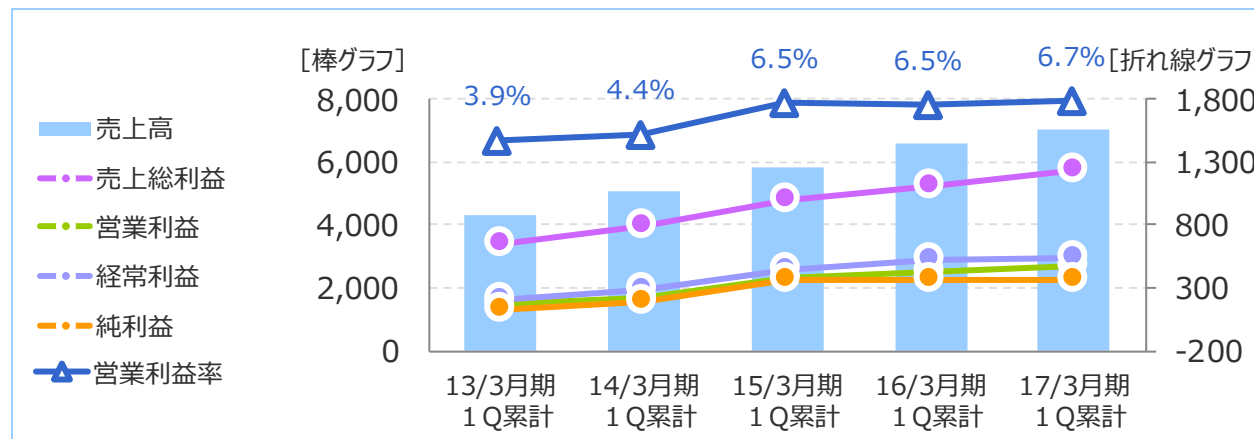
[単位：百万円未満切捨]

- 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いは、デジタル革命の潮流が後押しする形となり、前年比増収増益
- 事業分野別、子会社毎の業績は、まだら模様の様相

		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	前年 同期比	対上期 消化率
1 Q 累 計	売上高	5,810	6,564	7,014	106.9%	46.1%
	売上総利益	1,002 (17.3%)	1,104 (16.8%)	1,240 (17.7%)	112.3%	
	営業利益	380 (6.5%)	423 (6.5%)	470 (6.7%)	111.1%	37.3%
	経常利益	443 (7.6%)	525 (8.0%)	535 (7.6%)	101.9%	38.3%
	純利益	358 (6.2%)	361 (5.5%)	368 (5.3%)	101.9%	38.8%
	EPS 円/株	33.91	32.82	32.6		

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

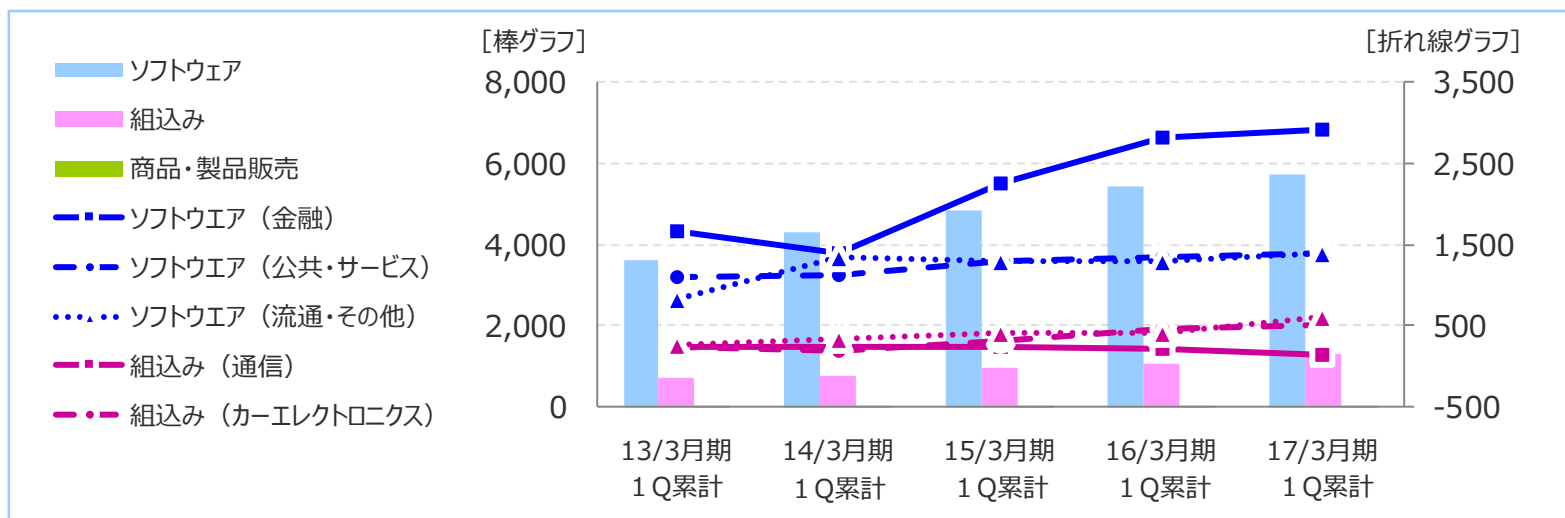
【注】「純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」です。



- 組込みの、通信システムはデジタル通信端末の開発規模が減少、
 その他はデジタル情報家電、医療機器、制御系が好調

[単位：百万円未満切捨]

セグメント		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	
1 Q 累 計	ソフトウェア	金融関連	2,246	2,818	2,926	103.8%
		公共・サービス	1,290	1,341	1,400	104.4%
		流通・その他	1,285	1,285	1,392	108.3%
		計	4,821	5,445	5,718	105.0%
組込み型	通信システム	238	227	154	68.0%	
	カーエレクトロニクス	314	453	518	114.3%	
	その他	419	404	611	151.3%	
	計	972	1,085	1,284	118.4%	
商品・製品販売		15	33	11	35.1%	
全計		5,810	6,564	7,014	106.9%	

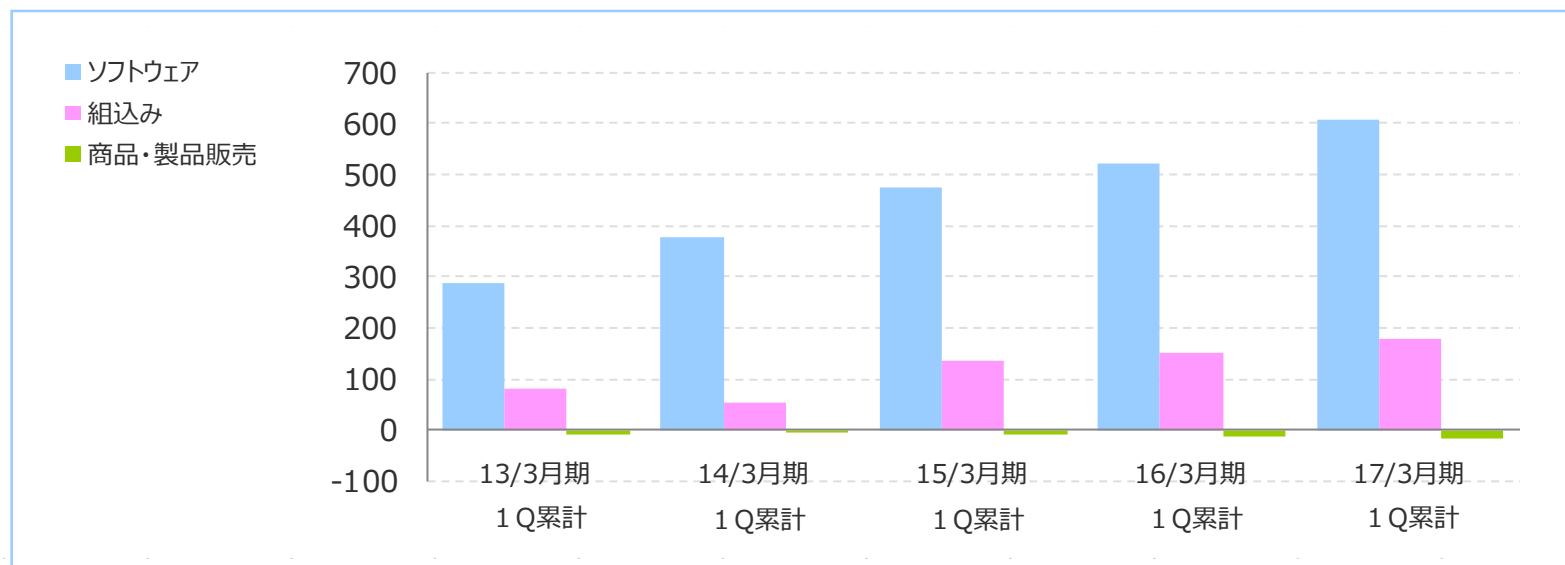


[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェアは、ERP事業で受注案件の収益性が低い

1 Q 累 計		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		前年同期比
	ソフトウェア	476	(9.9%)	520	(9.6%)	608	(10.6%)	117.0%
	組込み型	136	(14.0%)	150	(13.9%)	180	(14.1%)	119.8%
	商品・製品販売	▲8	(-)	▲13	(-)	▲15	(-)	-
	全計	604		657		773		117.7%

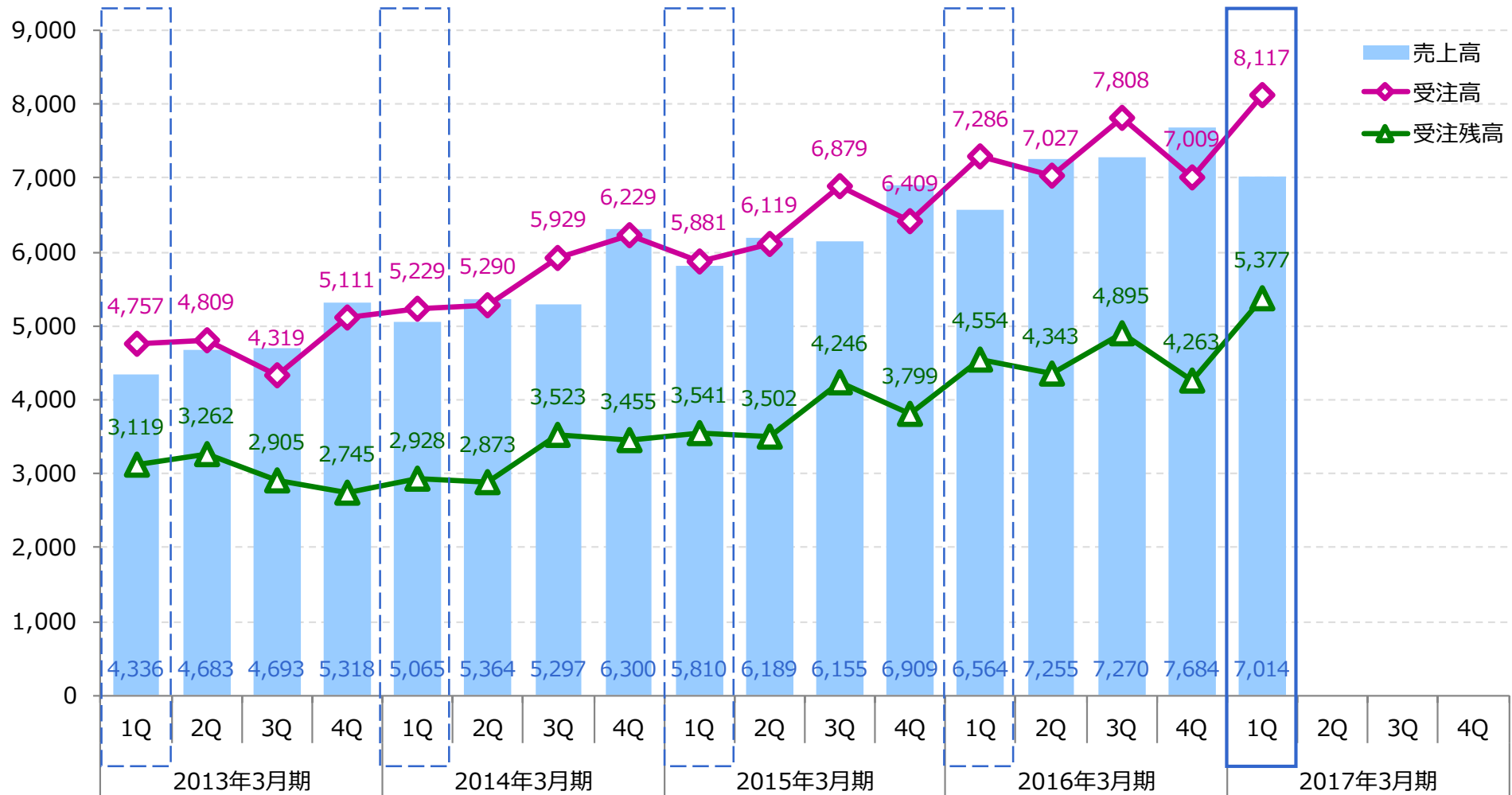
【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。



[単位：百万円未満切捨]

■ 例年とおり

(受注高・受注残高は、第3四半期がピーク、第4四半期は減少)



③ 2017年3月期の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- 5月9日に発表した業績予想から変更なし
- 年平均成長率10%を見込む

2Q累計	2016年3月期				2017年3月期	
	<2015/10/26公表予想>	前年同期比	実績	前年同期比	<2016/5/9公表予想>	前年同期比
	売上高	13,820	115.2%	13,819	115.2%	15,220
売上総利益			2,511 (18.2%)	116.9%		
営業利益	1,210 (8.8%)	124.7%	1,208 (8.7%)	124.6%	1,260 (8.3%)	104.3%
経常利益	1,410 (10.2%)	130.5%	1,410 (10.2%)	130.5%	1,400 (9.2%)	99.3%
純利益	1,017 (7.4%)	131.5%	1,017 (7.4%)	131.6%	949 (6.2%)	93.3%
EPS 円/株	90.31		91.54		83.72	

通期	2016年3月期				2017年3月期	
	<2015/10/26公表予想>	前年同期比	実績	前年同期比	<2016/5/9公表予想>	前年同期比
	売上高	27,600	110.1%	28,775	114.8%	31,100
売上総利益			5,231 (18.2%)	116.0%		
営業利益	2,300 (8.3%)	114.3%	2,484 (8.6%)	123.4%	2,750 (8.8%)	110.7%
経常利益	2,600 (9.4%)	116.0%	2,857 (9.9%)	127.5%	3,000 (9.6%)	105.0%
純利益	1,780 (6.4%)	126.6%	1,705 (5.9%)	121.3%	2,000 (6.4%)	117.3%
EPS 円/株	158.07		152.26		176.43	

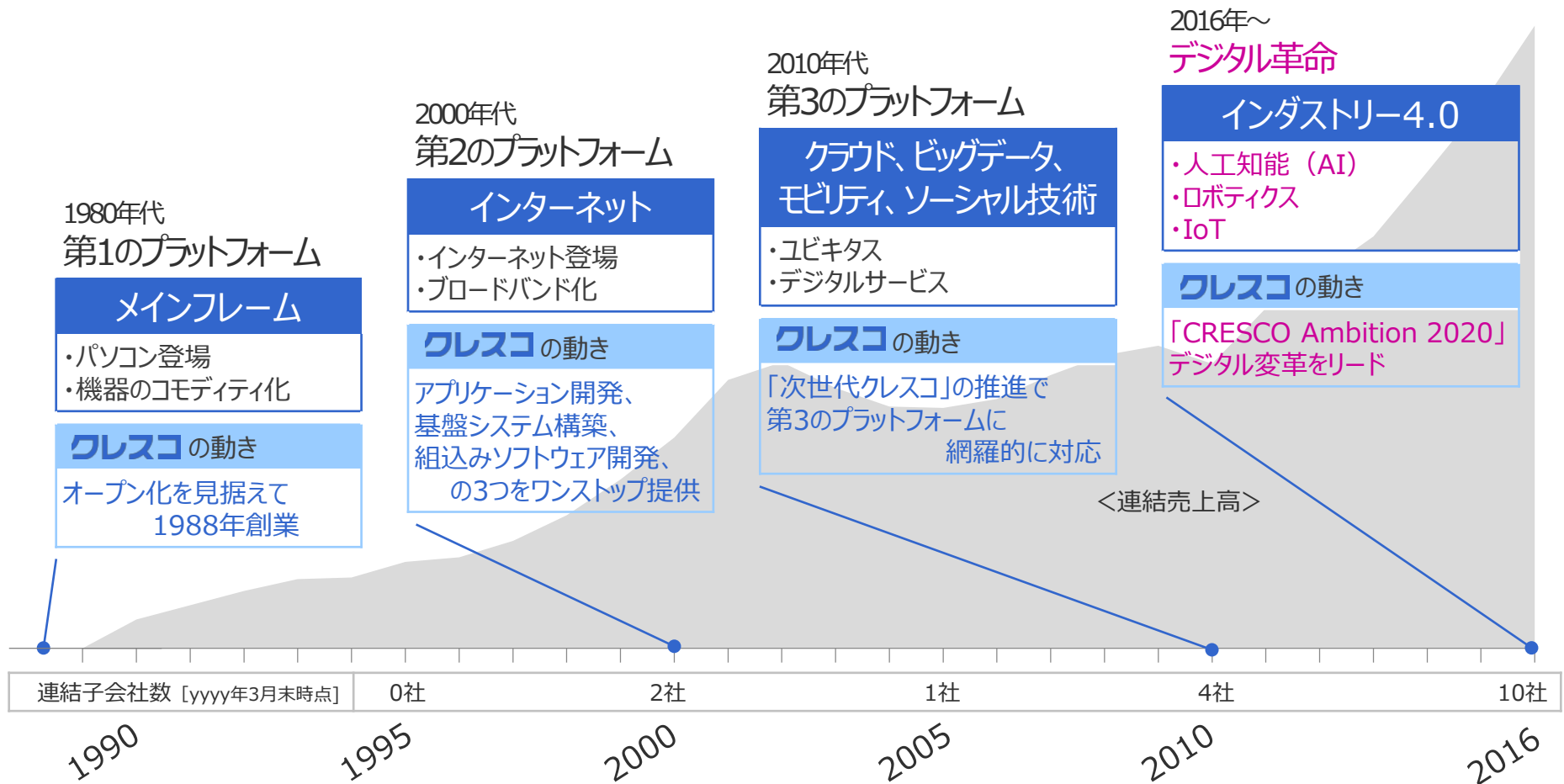
【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

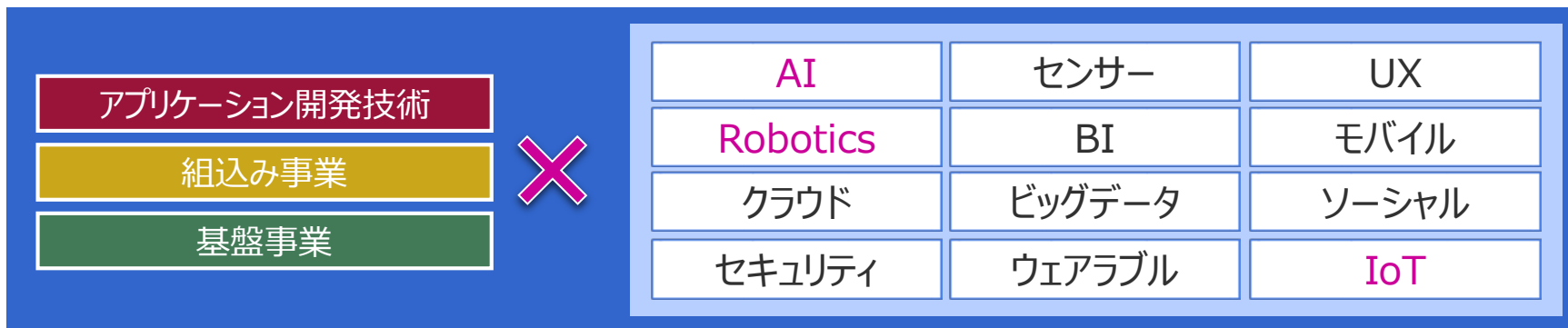
[単位：百万円未満切捨]

- 日銀のマイナス金利や円高等の金融リスクの他、新興国経済の減速やEU離脱問題、Brexitに伴う先行き不透明感の高まりなど、国内景気に悪影響を及ぼす懸念は多々ありますが、循環的な回復を続ける企業業績を踏まえると、業界や業種で格差は生じるものの、今後の需要の動向は、企業の業績改善努力や良好な雇用情勢、政府の景気対策等が下支えとなり、緩やかながら拡大傾向になると予測しております。
- 各種動向調査では、EU諸国の動向や円高、個人消費の低迷、金融政策等を懸念し、2016年7月以降の経済見通しは、「下振れ傾向」と予測するものもございますが、当社企業グループの顧客動向や営業状況から鑑み、**新たな価値の創出や競争力強化を目指すIT投資（いわゆる「攻めのIT経営」）は、当面継続**すると考えております。
- IT投資は、**クラウドやモバイル端末（スマートフォンやタブレットPC等）を利活用したシステムへの移行、ITシステム基盤の統合・再構築、ビッグデータの分析と活用、ソーシャル・テクノロジーのビジネス活用など、第3のプラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」に関連する領域の成長が、「モノのインターネット（Internet of Things : IoT）」、スマートロボット、AI（人工知能）といった次世代トレンドと相まって加速**すると予測しております。

- ITプラットフォームの変化にあわせてサービスのご提供ができるよう、「技術研究所」が**数年先を見据えて、先端技術に取組んでいます。**



- 3つのコア技術と先端技術の組み合わせで、お客様のビジネスニーズを満たします。



共同研究

協業

M&A

グループ連携

クラウド Intelligent Folder インテリジェントフォルダ	高速クラウド Intelligent Folder Express	AWS 導入サービス Creage	IoT プラットフォーム KEYAKI IoT Platform	ロボット プラットフォーム まるロボ Pepper, Sota
Beacon みんなのてんこ	AI × ロボティクス 湯けむりロボ Watson × ロボット			

※ 一部を除き、商品名は当社の商標または登録商標です。
※「Watson」「Pepper」「Sota」は、各社の商標または登録商標です。

- 医療、エネルギー、ロボットの3業種が、特に市場にイノベーションをもたらす分野になると考えており、主力のソフトウェア開発関連事業の他、先端技術関連事業の当面の成長を見込んでおります。
- マイナンバー制度に伴う個人情報保護体制の強化や標的型攻撃に代表される高度なサイバー攻撃、悪意ある従業員による内部からの情報漏洩などの不祥事が多発する現状を背景に、企業のセキュリティに対する意識が高まっており、プラットフォーム関連事業（クラウドを含む基盤システムやネットワーク等）にとって新たなビジネスチャンスになると認識しております。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取り込めるポジションにあり、あらゆる企業や団体、産業がデジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を模索するデジタル変革パートナーとして、企業が戦略的IT投資を通して成長を実現できる現実的な提案を期待されております。
- 事業の柱であるソフトウェア開発事業（ビジネス系ソフトウェア、組込型ソフトウェア）において、技術および品質の面から更なる強化を図ってまいります。
- 先端技術を積極的に取り込み、企業の業績改善に寄与するサービスおよびソリューションを充実させるとともに、デジタル変革をリードして、社会に貢献してまいります。

株主 還元方針

- 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。特段の株主優待は行っておりません。
- 配当に関しましては、当社（単体）の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

【ご参考】

	2013年3月期				2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション 【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
ワイヤステクノロジー 【※2】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・コミュニケーションズ 【※1】	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・アイディー 【※2】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコワイヤレス 【※2】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●			
アイオス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
科礼斯軟件（上海）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シースリー	/		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クリエイティブジャパン	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
エス・アイ・サービス 【※3】【※5】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/
メディア・マジック 【※4】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●			
子会社総数	8	8	9	9	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	10	10	9			

【※1】 2014年1月末付にて、クレスコグループとの資本関係を解消（全株式譲渡）

【※2】 2015年4月1日付で「ワイヤステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※3】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※4】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※5】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・ITシステム基盤構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.) ・公共・サービス (航空、鉄道、電力、放送、医療、旅行、人材ビジネス etc.) ・流通・その他 (運輸、小売 etc.)
組込型 ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【IRのお問合せ】 広報IR推進室
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058